



2024年3月期 第2四半期 決算説明会資料

日本発条株式会社(東証プライム市場 5991)
NHK Spring Co., Ltd.(5991/TSE Prime Market)

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

24.3期 第2四半期 決算概要 24.3期 業績予想概要

代表取締役副社長
CFO

吉村 秀文

本日は、ご多忙の中弊社決算説明会へ多数ご参加いただき、誠にありがとうございます。
CFOの吉村でございます。本日はよろしく申し上げます。

それでは、11月13日にリリースしました弊社2024年3月期第2四半期決算並びに通
期の業績予想につきまして説明させていただきます。

24.3期 第2四半期 実績

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

(億円)

	23.3期 上期実績	24.3期 上期		増 減	
		5月時点予想	実績	対前年同期	対5月予想
売上高	3,326	3,450	3,621	295	171
営業利益	172	80	79	△93	△0
営業利益率	5.2%	2.3%	2.2%	△3.0%	△0.1%
経常利益	279	110	187	△92	77
経常利益率	8.4%	3.2%	5.2%	△3.2%	2.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	198	60	143	△55	83
特別損益	-	-	13	13	13
平均為替レート					
US\$	133.5	130.0	141.3	7.9	11.3
タイバツ	3.6	3.8	3.9	0.3	0.1
上期末為替レート					
US\$ (当期)	144.8	130.0	149.6	4.8	19.6
(前期)	122.4	133.5	133.5	11.1	-
タイバツ (当期)	3.9	3.8	4.1	0.2	0.3
(前期)	3.4	3.8	3.8	0.4	-

3

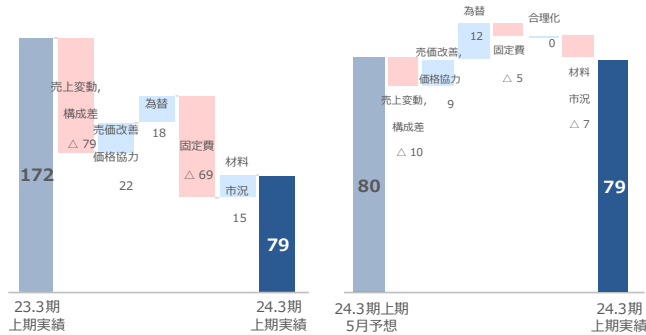
まず、第2四半期の決算概要でございます。

売上高3,621億円、営業利益79億円、経常利益187億円、純利益は143億円となりました。為替レートについてはご覧のとおりです。

営業利益の変動要因分析

	23.3期	24.3期上期		対前年同期	対5月予想
	上期実績	5月時点予想	実績		
売上高	3,326	3,450	3,621	295	171
営業利益	172	80	79	△93	△0
営業利益率	5.2%	2.3%	2.2%	△3.0%	△0.1%

変動要因分析 (対前年同期 / 5月予想 増減)



▽対前年同期実績

売上の増加のうち、4割は円安による在外子会社の円換算影響、3割は鋼材高騰分の販売価格への反映等であり、為替と材料市況変動の影響を大きく受けた。

半導体供給不足による自動車メーカーの生産調整からの持ち直しの動きが見られ、自動車関連事業は増収傾向で推移。

一方、前年同期まで好調に推移したHDD関連事業および半導体プロセス部品事業の数量減により、営業利益は前年実績を下回った。

▽対5月時点予想

シート事業の台数増や円安による押し上げ効果はあったものの、相対的に利益率の高いHDD関連事業の想定以上の数量減が影響し、当初業績予想並みの営業利益となった。

前年同期に対しましては、円安の進行による海外拠点の為替換算差、および鋼材市況等の客先からの回収等により増収となりましたが、営業利益と経常利益、当期純利益は減益となりました。

期首の予想に対しましては、シート事業の台数増や円安による押し上げはございましたが、利益率の高いHDD関連事業が低迷し、予想並みの営業利益となりました。

24.3期 通期予想

(億円)

	23.3期 実績	24.3期		増 減	
		5月時点予想	今回予想	対前期	対5月予想
売上高	6,932	7,500	7,600	667	100
営業利益	288	350	270	△18	△80
営業利益率	4.2%	4.7%	3.6%	△0.6%	△1.1%
経常利益	373	400	400	26	-
経常利益率	5.4%	5.3%	5.3%	△0.1%	△0.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	215	250	250	34	-
特別損益	△70	-	13	83	13
平均為替レート					
US\$	135.0	130.0	143.0	8.0	13.0
タイバツ	3.7	3.8	4.0	0.3	0.2
期末為替レート					
US\$ (当期)	133.5	130.0	145.0	11.5	15.0
(前期)	122.4	133.5	133.5	-	-
タイバツ (当期)	3.8	3.8	4.0	0.2	0.2
(前期)	3.4	3.8	3.8	-	-

5

次に通期の予想です。

売上高は期首の予想に対し100億円増の7,600億円、営業利益は80億円減の270億円といたしました。

為替レートはご覧のとおり、下期を1ドル145円と置きまして、通期の平均レートは143円とし、経常利益と当期純利益はそれぞれ400億円、250億円と据え置いております。

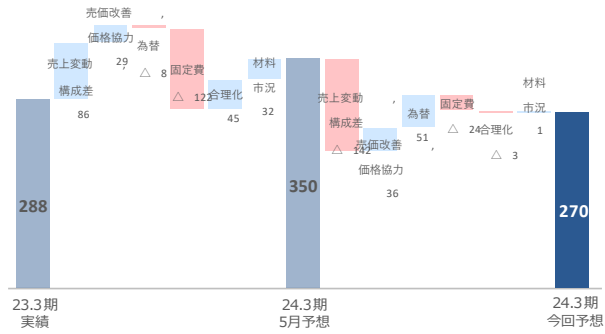
24.3期 通期予想

営業利益の変動要因分析



	23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	今回予想		
売上高	6,932	7,500	7,600	667	100
営業利益	288	350	270	△18	△80
営業利益率	4.2%	4.7%	3.6%	△0.6%	△1.1%

変動要因分析



▽対5月時点予想

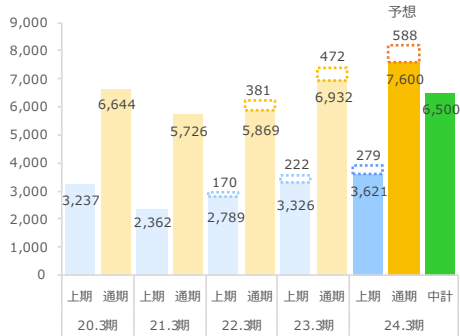
シート事業の台数増や円安による押し上げ効果は寄与するものの、相対的に利益率の高いHDD関連事業および半導体プロセス部品事業の数量減影響が大きく、グループ全体では増収減益となる見通し。

今回営業利益を下方修正した大きな要因は、今下期からの回復を見込んでおりましたHDD関連事業、半導体プロセス部品事業の回復が遅れる見通しとなったことによるものです。

業績推移

売上高

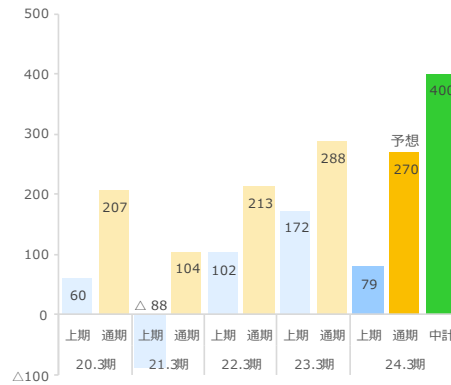
(億円)



『収益認識に関する会計基準（改正企業会計基準第9号）』の適用により、従来は売上高として計上していた顧客からの有償支給額を、2022年3月期より売上原価と相殺表示しております。

営業利益

(億円)

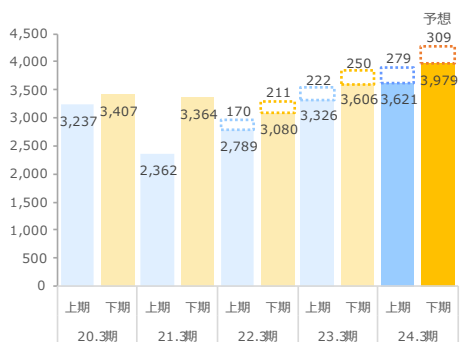


続きまして、業績の推移でございます。水色が上期、黄色が通期の業績を示しております。

業績推移（半期ベース）

売上高

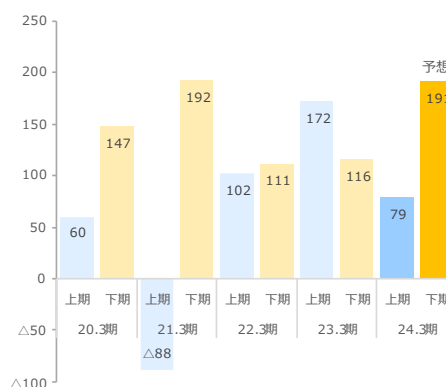
(億円)



『収益認識に関する会計基準（改正企業会計基準第9号）』の適用により、従来は売上高として計上していた顧客からの有償支給額を、2022年3月期より売上原価と相殺表示しております。

営業利益

(億円)



こちらは半期ベースの業績の推移でございます。

売上高は右肩上がりとなっておりますが、先ほども申し上げましたように、為替や鋼材市況等の影響を大きく受けており、また内訳となる事業セグメントごとの構成差もございまして、営業利益に関しては増減が大きくなっております。

特別利益・特別損失

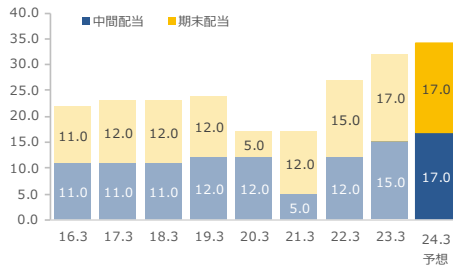
特別損益 主な内訳			(億円)
科目	内容		金額
特別利益	投資有価証券売却益	株式の売却益	13
	計		13

次のページは特別損益の概要でございます。

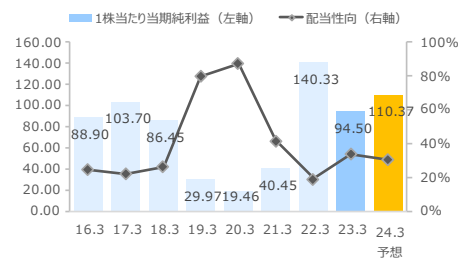
特別損失の計上はございませんでした。

配当

1株当たり配当額



1株当たり当期純利益



	第2四半期末	期末	合計	配当性向
23.3期 実績	15.0円	17.0円	32.0円	33.9%
24.3期 予想	17.0円	17.0円	34.0円	30.8%

配当につきましては、中間配当を17円、期末の配当予想も17円としており、配当性向30.8%でございます。

24.3期 第2四半期 決算詳細

続きまして、第2四半期決算の詳細でございます。

セグメント別の売上高・営業利益の状況

(億円)

		23.3期	24.3期上期		対前年同期	対5月予想
		上期実績	5月時点予想	実績	増減	増減
■懸架ばね	売上高	681	754	786	104	32
	営業利益	△17	△8	△35	△17	△27
	営業利益率	△2.6%	△1.1%	△4.5%	△1.9%	△3.4%
■シート	売上高	1,247	1,426	1,555	307	129
	営業利益	25	40	77	51	37
	営業利益率	2.1%	2.8%	5.0%	2.9%	2.2%
■精密部品	売上高	840	736	747	△92	11
	営業利益	98	19	6	△91	△12
	営業利益率	11.7%	2.6%	0.9%	△10.8%	△1.7%
■産業機器ほか	売上高	556	534	532	△23	△1
	営業利益	66	29	31	△35	2
	営業利益率	11.9%	5.4%	5.8%	△6.1%	0.4%
合計	売上高	3,326	3,450	3,621	295	171
	営業利益	172	80	79	△93	△0
	営業利益率	5.2%	2.3%	2.2%	△3.0%	△0.1%

▽対前年実績

自動車関連事業は、一部、中国拠点の数量減はあったものの、全体的には半導体供給不足による自動車メーカーの生産調整からの持ち直しの動きが見られ、増収傾向となった。また、円安進行による在外子会社の円換算影響や、鋼材価格高騰分の販売価格への反映などもあり売上は大きく増加した。

非自動車関連事業は、円安による利益の押し上げはあったものの、前年下期から続くHDD市場の減速や、半導体プロセス部品の受注減が影響し、減収減益となった。

▽対5月時点予想

自動車関連事業では、特にシート事業を中心に増収となったものの、北米懸架ばね事業の人件費・動力光熱費等の高騰や鋼材高騰影響の回収遅れ、および利益率の高いHDD関連事業の減収により、当初予想並みの営業利益に着地した。

まず、事業セグメント別の売上高、営業利益の概要でございます。

自動車関連事業につきましては、半導体供給不足等による影響からの持ち直しのほか、鋼材市況影響等の販売価格への反映や、円安による為替換算差もあり、前期に対して増収となっております。

非自動車関連事業におきましては、円安による利益の押し上げがございましたが、前年下期から続くHDD関連事業および半導体プロセス部品事業の低迷により減収となりました。

全体としては、前期に対して増収ながら、利益率の高い事業の低迷により減益となっております。

期首の予想に対しましては、シート事業で大きく増収となったものの、懸架ばね事業の北米での人件費・エネルギーコスト等の高騰影響や鋼材市況の回収遅れ、またHDD関連の低迷により、営業利益は当初予想並みとなりました。

(億円)

	23.3期 上期実績	24.3期上期		対前年同期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	実績		
●日本	売上高	1,842	1,990	241	94
	営業利益	123	55	△39	29
	営業利益率	6.7%	2.8%	△2.7%	1.3%
●アジア	売上高	948	890	△52	6
	営業利益	74	36	△38	0
	営業利益率	7.9%	4.0%	△3.8%	0.0%
●米欧ほか	売上高	534	570	106	70
	営業利益	△25	△11	△14	△29
	営業利益率	△4.8%	△1.9%	△1.5%	△4.4%
合計	売上高	3,326	3,450	295	171
	営業利益	172	80	△93	△0
	営業利益率	5.2%	2.3%	△3.0%	△0.1%

▽対前年実績

日本は、シート事業を中心に自動車関連事業で増収となったものの、高い利益率のHDD関連事業及び半導体プロセス部品事業の数量減により、前年比では増収減益となった。

アジアは、中国における日系自動車メーカー向け製品の受注減と、タイ・中国のHDD関連部品の受注減により減収減益となった。

米欧ほかは、北米自動車市場の回復と円換算影響により増収となったが、人件費やエネルギーコスト等の固定費増が利益を押し下げた。

▽対5月時点予想

日本は、HDD関連事業は数量減となったものの、円安による押し上げ効果と、シート事業をはじめとした自動車関連事業の好調により増収増益となった。

米欧ほかは、人件費・エネルギーコスト等の上昇に加え、鋼材高騰影響の回収遅れにより減益となった。

13

次に地域セグメント別の状況でございます。

対前年同期に対しまして、日本はシート事業を中心に自動車関連事業で増収となったものの、利益率の高いHDD関連事業および半導体プロセス部品事業の減収により、前年比で増収減益となりました。

アジアでは、中国における日系自動車メーカー向けの受注減と、タイ・中国でのHDD関連事業の不調により、対前期減収減益となっております。

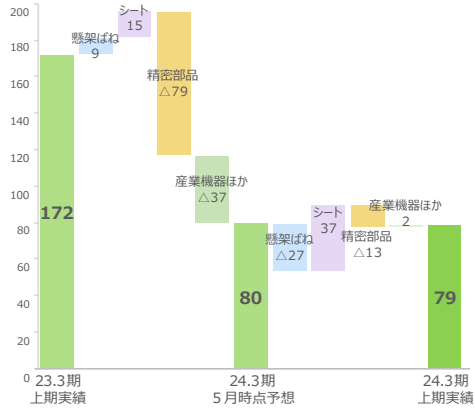
米欧ほかにおいては、自動車市場の回復と為替の換算差により増収となりましたが、人件費やエネルギーコスト等の高騰により減益となりました。

期首の予想に対しましては、日本はHDD関連事業が想定以上に低迷したものの、円安による利益の押し上げとシート事業を中心とした自動車関連事業の好調により、増収増益となりました。

米欧ほかでは、先ほど申し上げた人件費やエネルギーコスト等の高騰に加え、鋼材市況の回収が遅れており、減益幅が膨らみました。

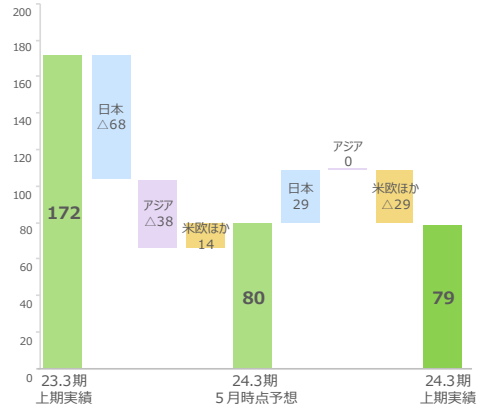
事業セグメント別

(億円)



地域セグメント別

(億円)



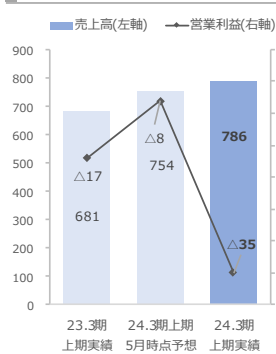
事業別、地域別の営業利益の推移でございます。

前期に対しては日本とアジアの精密部品セグメントと産業機器ほかセグメントの減益が目立ちます。期首の予想に対してはシート事業セグメントの増益に対し、米欧のばね事業の減益により、ほぼ予想並みとなっております。

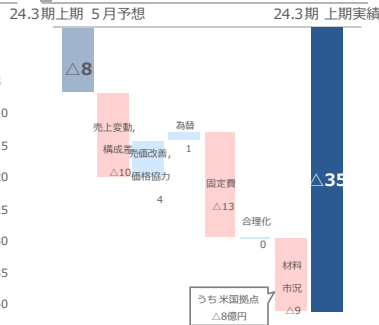
セグメント分析：懸架ばね

	23.3期 上期実績	24.3期上期		対前年同期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	実績		
売上高	681	754	786	104	32
営業利益	△17	△8	△35	△17	△27
営業利益率	△2.6%	△1.1%	△4.5%	△1.9%	△3.4%

業績推移



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

半導体不足影響が緩和し、国内事業は総じて数量増の傾向となった。

米欧事業も、為替換算の影響等により増収となったが、労働市場逼迫による人件費高騰、人材が定着しない事による生産性の悪化、及び動力光熱費等の固定費増の影響を受けて減益となった。

▽対5月時点予想

売上は、在外子会社の換算等の影響で当初予想に対し増収となった。

損益面では、北米事業の生産性改善遅れに伴う費用増や鋼材高騰影響の回収遅れ、及び中国における日系自動車メーカー向け製品受注の落ち込みの影響が重なり、増収減益となった。

続きまして、各事業セグメント別の分析でございます。

懸架ばね事業です。

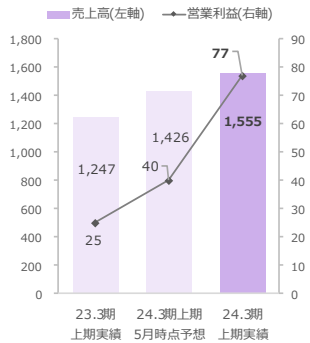
前年同期に対しましては中国を除き全体的に数量増となっておりますが、主に北米の労働市場の逼迫による人件費の高騰と、離職率が高いことによる生産性の悪化、およびエネルギーコスト等の上昇により、増収減益となりました。

期首の予想に対しましては、円安による換算差の影響が大きく増収となっておりますが、やはり北米の固定費の上昇や同じく北米の鋼材市況の回収遅れに加え、中国市場の落ち込みもございまして、増収減益となりました。

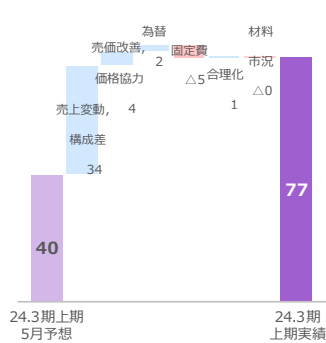
24.3期 第2四半期 実績
セグメント分析：シート

	24.3期上期		実績	対前年同期 増減	対5月予想 増減
	23.3期 上期実績	5月時点予想			
売上高	1,247	1,426	1,555	307	129
営業利益	25	40	77	51	37
営業利益率	2.1%	2.8%	5.0%	2.9%	2.2%

業績推移



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

半導体不足による生産台数減影響は概ね解消され、SUBARU・トヨタ・日産を中心に台数回復。円安による在外子会社の円換算額の増加等もあり大幅な増収増益となった。

▽対5月時点予想

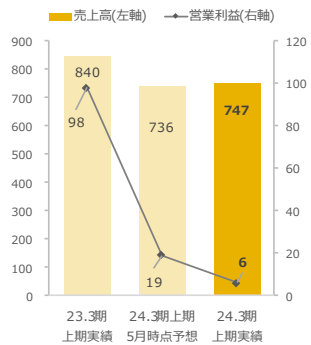
中国市場や国内の一部客先向けでは想定台数に達しなかったものの、日米のSUBARUビジネスが想定以上に好調に推移し増収増益となった。

続きましてシート事業でございます。

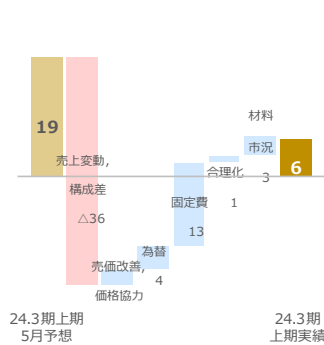
対前年同期、対期首予想とも、中国を除く各地での数量増により、増収増益となっております。

	23.3期 上期実績	24.3期上期		対前年同期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	実績		
売上高	840	736	747	△92	11
営業利益	98	19	6	△91	△12
営業利益率	11.7%	2.6%	0.9%	△10.8%	△1.7%

業績推移



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

自動車関連分野は、半導体供給不足等による生産調整からの持ち直しにより、概ね回復基調となった。

非自動車関連分野は、前年上期まで高い利益率で好調に推移していたHDD関連事業の数量減により、前年同期比で大幅な減収減益となった。

▽対5月時点予想

中国を除く各地域の自動車関連事業は概ね数量増。為替の円安効果も寄与したが、HDD関連事業の当初想定以上の数量減が影響し、増収減益となった。

続きまして精密部品セグメントです。

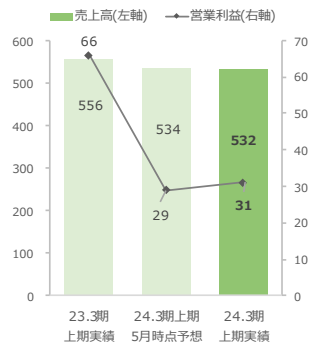
前年同期に対しましては、自動車関連事業においては数量が回復してきております一方、利益率の高いHDD関連事業において前下期からの低迷が継続しており、大幅な減収減益となりました。

期首の予想に対しましても、中国を除く自動車関連事業の回復と、円安効果による利益の押し上げはございましたが、HDD関連事業の想定以上の低迷により、増収減益となりました。

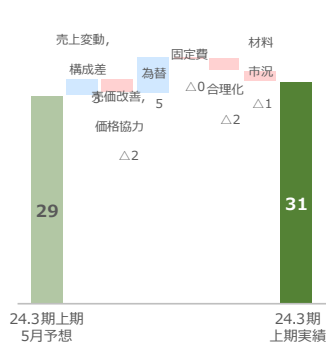
精密セグメント全体の売上実績は約750億円でございますが、うちHDD関連事業が300億円となっております。

	24.3期上期		実績	対前年同期 増減	対5月予想 増減
	23.3期 上期実績	5月時点予想			
売上高	556	534	532	△23	△1
営業利益	66	29	31	△35	2
営業利益率	11.9%	5.4%	5.8%	△6.1%	0.4%

業績推移



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

自動車生産台数の回復により関連事業の売上は増加。更に円安効果も寄与したが、半導体市場の低迷の影響を受け半導体プロセス部品の数量が減少し、前年同期比では減収減益となった。

▽対5月時点予想

ゴルフシャフト、マリンプロダクト等の受注減はあったものの、自動車関連事業の増収や、為替の円安効果が寄与し、概ね当初予想並みの売上高・営業利益に着地した。

産業機器ほかセグメントです。

前年同期に対し、自動車関連事業の売上は回復してきておりますが、半導体プロセス部品事業の前年下期からの低迷が継続し、減収減益となりました。

期首の予想に対しては、自動車関連の事業が予想を上回る一方、ゴルフシャフト、マリンプロダクト等のレジャー関連事業の受注減がございました。全体としては、円安による押し上げ効果もあり、売上・営業利益ともほぼ予想並みとなりました。

半導体プロセス部品の売上高は前期130億円、今期70億円の実績でございます。

決算実績につきましては、以上でございます

24.3期 業績予想詳細

続きまして、24年3月期の業績予想でございます。

24.3期 通期予想

(億円)

	23.3期 実績	24.3期		増 減	
		5月時点予想	今回予想	対前期	対5月予想
売上高	6,932	7,500	7,600	667	100
営業利益	288	350	270	△18	△80
営業利益率	4.2%	4.7%	3.6%	△0.6%	△1.1%
経常利益	373	400	400	26	-
経常利益率	5.4%	5.3%	5.3%	△0.1%	△0.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	215	250	250	34	-
特別損益	△70	-	13	83	13
平均為替レート					
U S \$	135.0	130.0	143.0	8.0	13.0
タイバーツ	3.7	3.8	4.0	0.3	0.2
期末為替レート					
U S \$ (当期)	133.5	130.0	145.0	11.5	15.0
(前期)	122.4	133.5	133.5	-	-
タイバーツ (当期)	3.8	3.8	4.0	0.2	0.2
(前期)	3.4	3.8	3.8	-	-

20

売上高は、期首の予想に対して100億円増の7,600億円、営業利益は期首の予想に対して80億円減の270億円、経常利益は400億円、当期純利益は250億円と据え置きと致しました。

(億円)

		23.3期	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		実績	5月時点予想	今回予想		
■懸架ばね	売上高	1,468	1,591	1,695	226	104
	営業利益	△27	21	0	27	△21
	営業利益率	△1.9%	1.3%	0.0%	1.9%	△1.3%
■シート	売上高	2,737	2,975	3,245	507	270
	営業利益	73	118	162	89	44
	営業利益率	2.7%	4.0%	5.0%	2.3%	1.0%
■精密部品	売上高	1,594	1,797	1,560	△34	△237
	営業利益	114	125	44	△70	△81
	営業利益率	7.2%	7.0%	2.8%	△4.4%	△4.2%
■産業機器ほか	売上高	1,131	1,137	1,100	△31	△37
	営業利益	127	86	64	△63	△22
	営業利益率	11.3%	7.6%	5.8%	△5.5%	△1.7%
合計	売上高	6,932	7,500	7,600	667	100
	営業利益	288	350	270	△18	△80
	営業利益率	4.2%	4.7%	3.6%	△0.6%	△1.1%

▽対5月時点予想

■懸架ばね

売価改善や円安効果、材料市況の回収等により日本・タイ・中国は概ね当初想定並みの利益を確保できる見込みも、米欧事業は当初損益目標から大きく下回る見通し。

■シート

前回予想を上回る数量予想となっており、台数増に伴い損益も計画を上回る見通し。

■精密部品

自動車関連部品は、上期に引き続き中国以外は概ね数量増の傾向。
HDD関連部品は、客先需要の回復時期遅れにより当初の売上計画から大きく下振れし、減収減益の見込み。

■産業機器ほか

半導体プロセス部品や金属基板の数量減により減収減益の見通し。

事業セグメント別の概況となります。

自動車関連事業におきましては、引き続き中国以外での受注が好調に推移し、市況等の回収や円安などの効果もあり、増収の見込みでございます。営業利益においては、シート事業は増収増益を見込んでおりますが、懸架ばね事業は米欧での不調により当初予想から下方修正しております。

非自動車関連事業では、HDD関連事業と半導体プロセス部品事業において需要の回復が期首の予想に対して遅れており、大幅な減収減益を予想しております。

(億円)

		23.3期	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		実績	5月時点予想	今回予想		
●日本	売上高	3,910	4,280	4,350	439	70
	営業利益	247	217	219	△28	2
	営業利益率	6.3%	5.1%	5.0%	△1.3%	△0.0%
●アジア	売上高	1,867	2,012	1,843	△24	△169
	営業利益	104	125	81	△23	△44
	営業利益率	5.6%	6.2%	4.4%	△1.2%	△1.8%
●米欧ほか	売上高	1,153	1,208	1,407	253	199
	営業利益	△63	8	△30	33	△38
	営業利益率	△5.5%	0.7%	△2.1%	3.4%	△2.8%
合計	売上高	6,932	7,500	7,600	668	100
	営業利益	288	350	270	△18	△80
	営業利益率	4.2%	4.7%	3.6%	△0.6%	△1.1%

▽対5月時点予想

●日本

日本は、HDD関連部品は当初想定以上の数量減となる見込みだが、シート事業を中心とした自動車関連分野の増収、及び円安による押し上げ効果で増収増益を確保できる見通し。

●アジア

中国における日系自動車メーカー向け製品の受注減、及びタイ・中国のHDD関連製品の受注減により、当初計画に対し減収減益となる見込み。

●米欧ほか

北米自動車市場の回復と円換算影響により増収。損益面でも下期挽回を図るが、上期の赤字幅をカバーできず、営業利益は当初計画を下回る見通し。

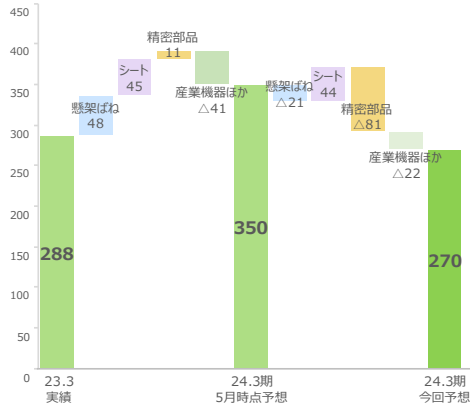
地域別に見てみますと、日本では、HDD関連事業と半導体プロセス部品事業で想定以上の数量減を予想しておりますが、シート事業を中心とした自動車関連事業の回復と円安による押し上げ効果により、期首予想の営業利益を確保できる見込みとなっております。

アジアにおきましては、HDD関連事業の受注減、中国における自動車関連事業の受注減により、大幅な減収減益を予想しております。

米欧ほか地域につきましては、自動車関連の数量増に加え、円換算影響もあり、増収の見込みです。損益面でも各種費用の回収などにより挽回を図り、下期は黒字転換を目指しておりますが、通期の営業利益は当初計画を下回る予想となっております。

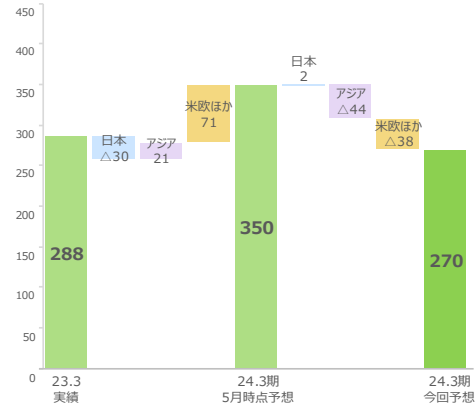
事業セグメント別

(億円)



地域セグメント別

(億円)

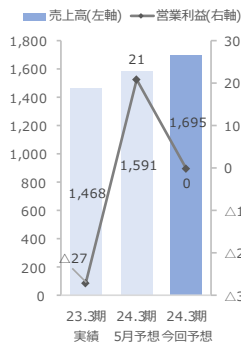


続いてのグラフは、前期から期首の予想、今回予想に至る推移を表したものでございます。

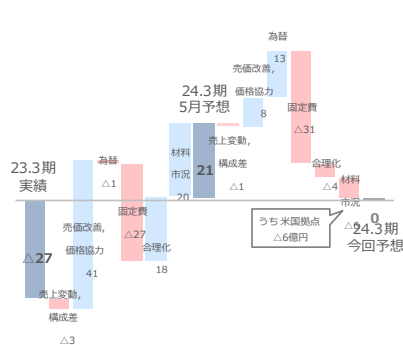
セグメント分析：懸架ばね

	23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	今回予想		
売上高	1,468	1,591	1,695	226	104
営業利益	△27	21	0	27	△21
営業利益率	△1.9%	1.3%	0.0%	1.9%	△1.3%

業績比較



営業利益の変動要因分析



▽対5月時点予想

売価改善や円安効果、材料市況の回収等により日本・タイ・中国は概ね当初想定並みの利益水準に着地する見通し。

下期の米欧事業については、売価改善と生産性改善努力により、上期比較では赤字幅が縮小するものの、通期ベースでは当初の利益目標を下回る見込み。

続きまして、事業セグメント別の詳細説明にまいります。

まずは懸架ばねセグメントでございます。

アジア以外では引き続き数量増の見込みで、売価改善や円安影響もあり、日本やタイでは期首の予想よりやや増益方向で着地する予想となっております。

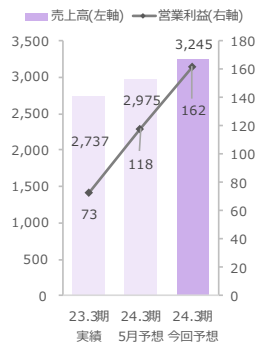
米欧事業におきましては、売価改善や上期に回収できなかった市況の回収、生産性改善等の努力により、下期を切り取れば黒字転換を計画しているものの、通期では営業損失の予想でございます。

全体では期首の予想に対して増収減益、営業利益を0と予想しております。

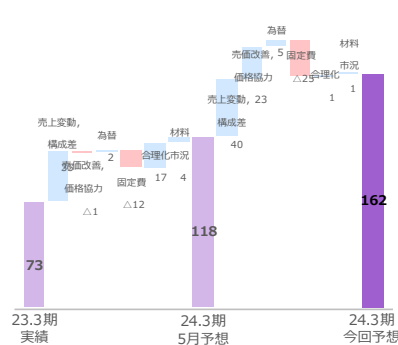
セグメント分析：シート

	23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	今回予想		
売上高	2,737	2,975	3,245	507	270
営業利益	73	118	162	89	44
営業利益率	2.7%	4.0%	5.0%	2.3%	1.0%

業績比較



営業利益の変動要因分析



▽対5月時点予想

中国を除くすべての拠点で前回予想を上回る売上高を確保できる見込み。

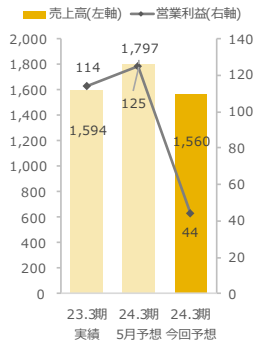
特にSUBARU・トヨタ・日産圏のビジネスが好調に推移し、当期はシート事業が連結グループ全体収支を牽引する見通し。

シートセグメントでは、数量の回復が顕著でございまして、中国を除きすべての地域で増収増益の見込みでございまして。

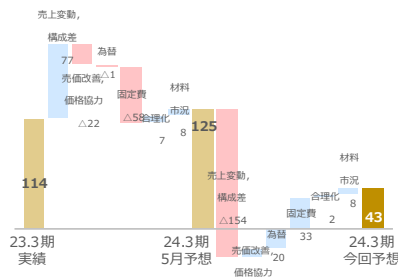
セグメント分析：精密部品

	23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	今回予想		
売上高	1,594	1,797	1,560	△34	△237
営業利益	114	125	44	△70	△81
営業利益率	7.2%	7.0%	2.8%	△4.4%	△4.2%

業績比較



営業利益の変動要因分析



▽対5月時点予想

自動車関連部品は、中国拠点を除き、概ね数量増の傾向。

HDD関連部品は、当初は下期以降の回復を想定していたが、客先需要の回復時期遅れにより当初の売上計画から大きく下振れ。円安による利益押上や固定費の抑制努力は織込むものの、当初の利益目標を下回る見通し。

精密部品セグメントでございます。

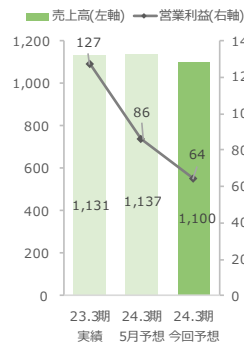
自動車関連事業は中国を除き回復傾向にあるものの、今下期の回復を想定しておりましたHDD関連事業において、需要の回復が来期下期となる見通しでございます。この結果、固定費の抑制努力や円安による利益の押し上げを織り込んではおりますが、期首の予想に対しては減益の予想となっております。

精密セグメント全体の売上予想は、約1,560億円ですが、うちHDD関連事業が560億円となっております。

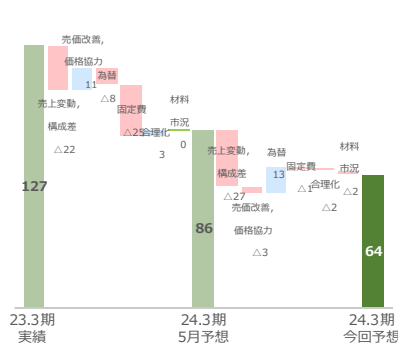
セグメント分析：産業機器ほか

	23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	今回予想		
売上高	1,131	1,137	1,100	△31	△37
営業利益	127	86	64	△63	△22
営業利益率	11.3%	7.6%	5.8%	△5.5%	△1.7%

業績比較



営業利益の変動要因分析



▽対5月時点予想

円安効果は寄与するものの、半導体プロセス部品や金属基板は当初想定の上数量を下回る見通し。

ゴルフシャフトやマリンプロダクト等のレジャー分野も、客先在庫調整の影響により当初の収支目標から下振れ。

産業機器ほかセグメントでございます。

円安による利益の押し上げはございますが、半導体プロセス部品事業や金属基盤事業は、当初の想定していた数量を下回る見通しでございます。

ゴルフシャフトやマリンプロダクト等のレジャー分野についても、上期の低調が継続し、全体で減収減益の予想となっております。

第2四半期決算、通期業績予想についてのご説明は、以上でございます。

2023中期経営計画 進捗状況

続きまして、当社2023中計の進捗状況につきましてご説明申し上げます。

24.3期 目標値

【売上高・損益目標】

- ・売上高 6,500億円
- ・営業利益 400億円 (利益率 6.2%)
- ・経常利益 420億円 (利益率 6.5%)
- ・親会社株主に帰属する当期純利益 250億円 (利益率 3.8%)

【財務指標目標】

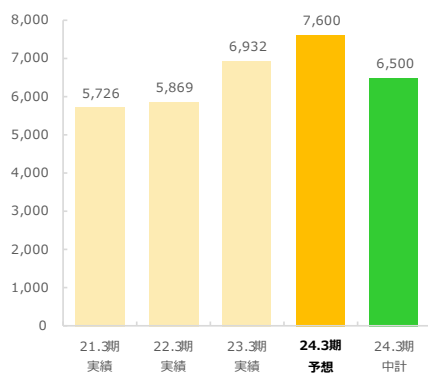
- ・経常利益率 : 6.5%
- ・ROE : 8.0%
- ・配当性向 : 30%程度を目指す

2021年5月に発表いたしました、売上・損益目標と財務指標目標はご覧の通りです。

21.3期～24.3期 業績状況

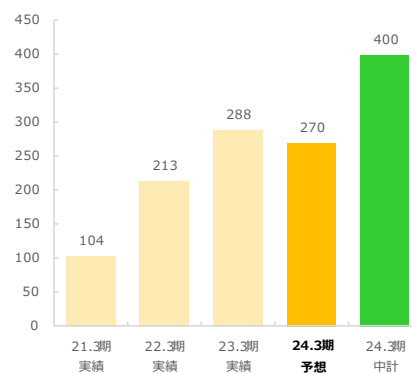
売上高

(億円)



営業利益

(億円)

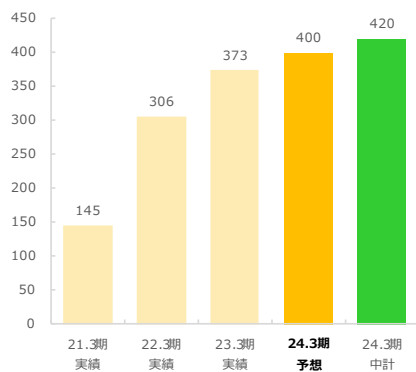


中計の売上損益目標に対して、売上高は計画値を大きく上回る見通しです。23年度の営業利益は利益率の高いHDD関連事業や半導体プロセス部品事業の一時的な落ち込みが響いております。

21.3期～24.3期 業績状況

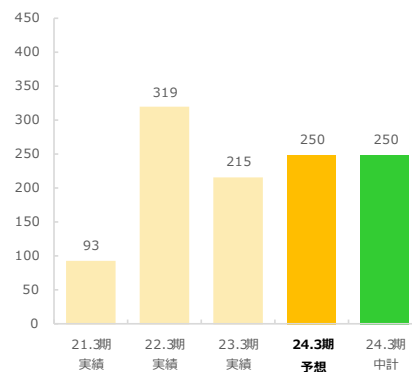
経常利益

(億円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(億円)



31

経常利益、当期純利益につきましては、為替の押し上げ効果が寄与しております。

21.3期～24.3期 業績状況

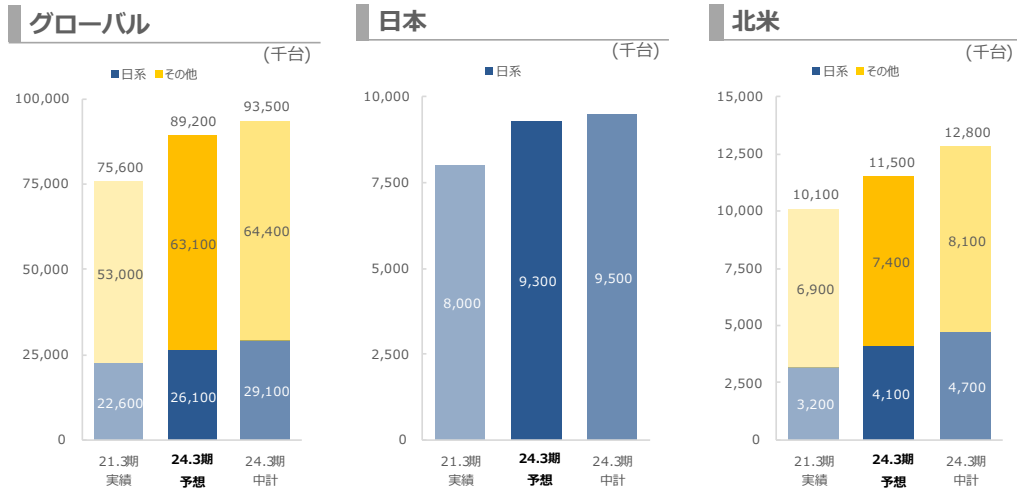
経常利益率、ROE、配当性向

	21.3期 実績	22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期 予想	24.3期 中計
経常利益率	2.5%	5.2%	5.4%	5.3%	6.5%
ROE	3.4%	10.5%	6.4%	6.8%	8.0%
配当性向	42.0%	19.2%	33.9%	30.8%	30.0%

次にKPIの状況でございます。

ROEにつきましては、純資産が円安に伴う為替換算および好調に推移している株式相場の影響を受けていることから、現時点では計画を下回っております。

売上の前提（自動車生産台数 推移）



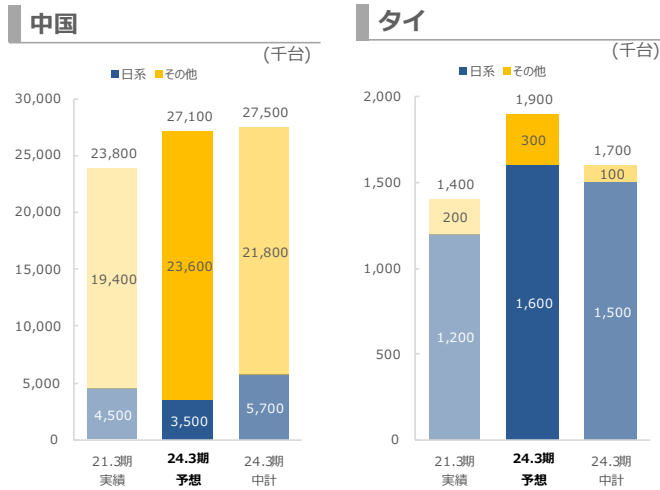
33

続きまして、自動車生産台数の計画及び23年度の見通してございます。

中計策定時点では、グローバルで9,350万台の自動車生産台数を見込んでおりましたが、8,920万台にとどまる見通してございます。

青色の部分が日系車を示しておりますが、地域別に見ましても、ご覧の通り日本、北米、中国とも生産台数は計画を下回る見通してございます。

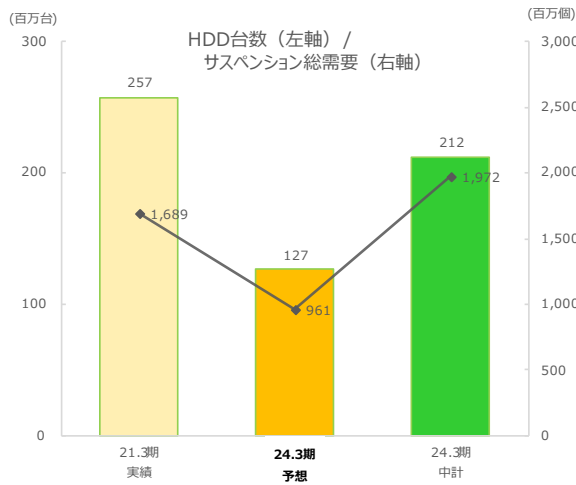
売上の前提（自動車生産台数 推移）



- 中計においては、コロナ禍の影響からの回復を前提に、23年度はグローバルで対20年度比24%増、各地域においても16~27%の大幅な伸びを見込んだ。
- 世界的な半導体不足の影響等により、自動車生産台数は中計で見込んだ数量までは回復していない。

タイにつきましては、新型コロナ流行前の2019年には及ばないものの、国内販売、輸出ともに好調な状況でございます。

売上の前提（HDD生産台数 推移）



- コロナ禍でのパニック・バイの反動により2022年後半からHDDの需要低迷が始まり、当初の想定以上に回復が遅れている。
⇒クラウドサービスプロバイダの投資がAIに向けられ、ストレージへの投資が抑制されていることが主要因
- 世界のデータ創出量は増加の一途を辿っており、HDDは半導体メモリとの価格差において依然として優位にあるため、今後HDDの需要は右肩上がりに推移すると予想される。

HDDの生産は足元で緩やかな回復を見せておりますが、計画値に対しましては大きく下回る見通しでございます。今のところ、2024年度後半から需要は回復すると予想しております。

23中計-23予想差異（セグメント別・要因別）

- ・23中計比で売上は1,100億円のプラス、営業利益は130億円のマイナス
- ・為替影響は売上高でプラス886億円、営業利益でプラス18億円

(億円)

セグメント	区分	24.3期中計	24.3期予想	差異	差異内訳			
					為替影響	鋼材高騰回収	補経費高騰回収	数量変動他
ばね	売上高	1,210	1,695	485	288	224	41	△ 68
	営業利益	30	0	△ 30	△ 2	30	3	△ 60
	%	2.5%	0.0%	-	-	-	-	-
シート	売上高	2,400	3,245	845	409	160	9	267
	営業利益	80	162	82	15	16	0	51
	%	3.3%	5.0%	-	-	-	-	-
精密部品	売上高	1,790	1,560	△ 230	181	73	9	△ 493
	営業利益	180	44	△ 136	5	5	△ 2	△ 144
	%	10.1%	2.8%	-	-	-	-	-
産業機器ほか	売上高	1,100	1,100	0	8	36	4	△ 47
	営業利益	110	64	△ 46	0	△ 10	△ 3	△ 34
	%	10.0%	5.8%	-	-	-	-	-
全体	売上高	6,500	7,600	1,100	886	493	63	△ 341
	営業利益	400	270	△ 130	18	41	△ 2	△ 187
	%	6.2%	3.6%	-	-	-	-	-

36

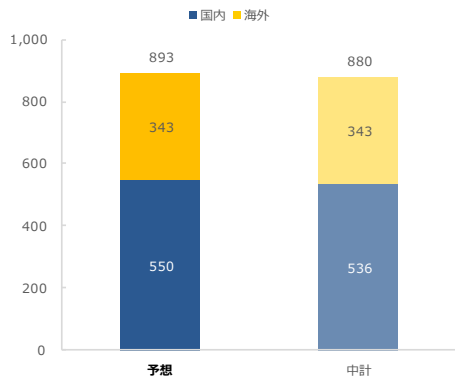
事業セグメント別の進捗状況でございます。

精密部品セグメントは、HDD関連部品の数量減、産業機器ほかセグメントは、半導体関連部品の数量減が大きく響いておりますが、シートセグメントはSUBARUビジネスを中心に復調しております。

設備投資・減価償却費 中計・予想比較

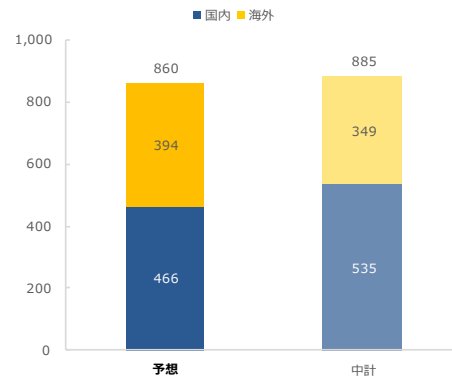
設備投資 22.3期～24.3期 計

(億円)



減価償却費 22.3期～24.3期 計

(億円)



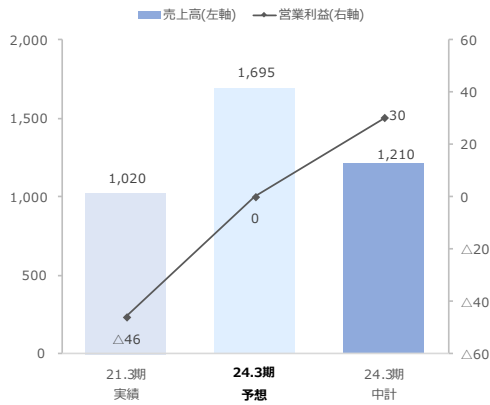
設備投資と減価償却費の状況でございます。

ご覧の通り、概ね計画値並みとなる見込みでございます。

各事業の進捗状況(懸架ばね)

- ・売上高は回復傾向であるが、鋼材市況高騰や労務費の上昇により売上原価が大幅に増加した。
- ・不採算品の適正売価への改善や生産性の向上と自動化による省人を図り固定費低減を推進していく。
- ・特に北米では、労務費上昇分や諸資材価格高騰の回収の遅れ、雇用環境悪化により収益改善が進んでいない。

業績比較 (億円)



23中計の課題と取組

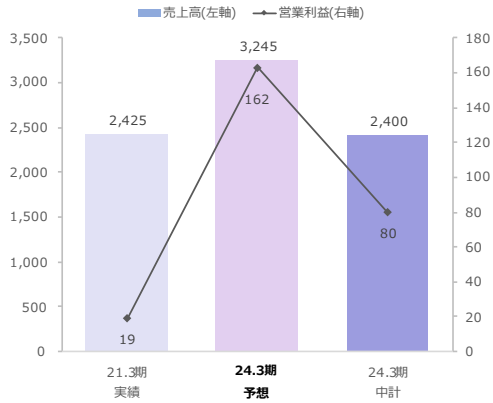
- ◆ **新技術・商品の創出**
新規テーパー成型により、同じ荷重に耐える従来の製品と比べ34%軽量化したX Tコイルばね等を開発
- ◆ **米州赤字拠点の黒字化、および欧州拠点の収支改善**
人件費の高騰や生産性改善の遅れで厳しい状況が続く。引き続き収益改善を推進する。
- ◆ **最適生産体制確立**
板ばね) 組立工程の関連会社への移管完了
巻ばね、スタビライザ) 生産直数の変更やグローバル供給体制の見直しを検討していく。
- ◆ **製造コストの徹底的な削減**
引き続き固定費の削減、合理化に努める。

各事業の中計進捗状況につきまして、以下のスライドでその概要をまとめております。

各事業の進捗状況(シート)

・売上高、営業利益共に中計を大きく上回る予想

業績比較 (億円)



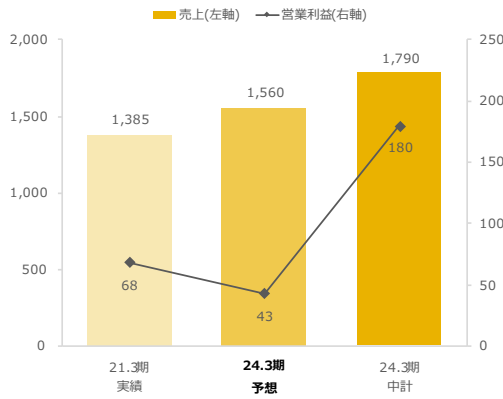
23中計の課題と取組

- ◆ **モデルチェンジへの着実な対応**
計画通り順調に対応
- ◆ **北米新工場の収益力向上**
新工場への移管完了
物流改善等により収益力が向上
- ◆ **解析技術向上等による開発費用低減、期間短縮**
静的強度試験の半減を目指し活動継続
- ◆ **客先品質要求への着実な対応**
開発手順の見直し、AI外観検査導入などで更なるレベルアップを推進
- ◆ **自動運転化時代に求められるシートの開発**
自動運転時に必要とされる当社独自のアイテム開発を推進中

各事業の進捗状況(精密部品)

- ・自動車関連事業では、半導体不足等による生産台数減少影響等により減収減益。
- ・情報通信関連事業では、コロナ禍でのパニック・バイの反動による HDDの需要低迷からの回復が遅れ、減収減益。

業績比較 (億円)



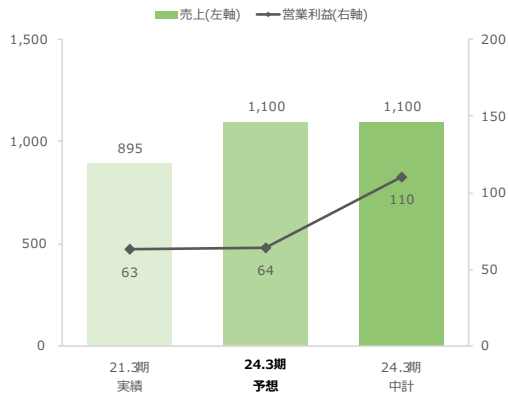
23中計の課題と取組

- ◆ 加速する電動化への着実な対応
 - ・メキシコでのモーターコア生産能力増強
 - ・HEV、EV向け薄板ばねの拡充
- ◆ 増加するHDDニアライン需要への適切な対応及びシェアアップ
 - HDD需要の回復を見据え、更なる生産性向上
- ◆ 生産性向上、AI活用等による原価低減
 - AIを活用したデータ処理、解析を推進

各事業の進捗状況(産業機器ほか)

・自動車及びレジャー関連事業の伸びはあるが、半導体製造装置需要の落ち込み影響が大きく、減収減益。

業績比較 (億円)



23中計の課題と取組

- ◆ **半導体プロセス部品**
メモリー市況低迷が長期化し、本格的な需要回復は24年度以降となる見込み
- ◆ **金属基板**
日本国内(駒ヶ根工場)、マレーシアにおける生産能力増強
- ◆ **配管支持装置、セキュリティ関連製品**
選択と集中による収益力向上を推進
- ◆ **各開発テーマのスピードアップと新製品の拡販**
シャワーヘッド製品、次世代溶射製品の展開

プロジェクトの進捗について

代表取締役社長
CEO

茅本 隆司

茅本です、いつもお世話になります。ありがとうございます。

懸架ばね	黒字化	利益最大化プロジェクト 懸架ばねの価格改善 コスト増に対する適正価格交渉 生産性改善
シート	顧客満足度向上	SUBARUプロジェクト QCDDを意識したマネジメント体制の構築 ニーズに適合したシートの開発
モーターコア	電動化の更なる加速	モーターコアプロジェクト 強みを活かした新規拡販 競争力UPと差別化による事業の加速

半年前に皆さんにお話しした3つのプロジェクトに対して、現在の進捗状況をご報告させていただきます。いずれもほぼ3年計画のプロジェクトですので、半年たった段階ということで、そのスタートの状況になります。

懸架ばねの進捗 利益最大化プロジェクト

44

それでは懸架ばねの進捗、利益最大化プロジェクトについてご説明いたします。

懸架ばねの価値向上

価格改善
インフレ上昇分の価格転嫁

労働生産性向上

労務費上昇を前提とした生産性向上
徹底した省人化

設備生産性向上

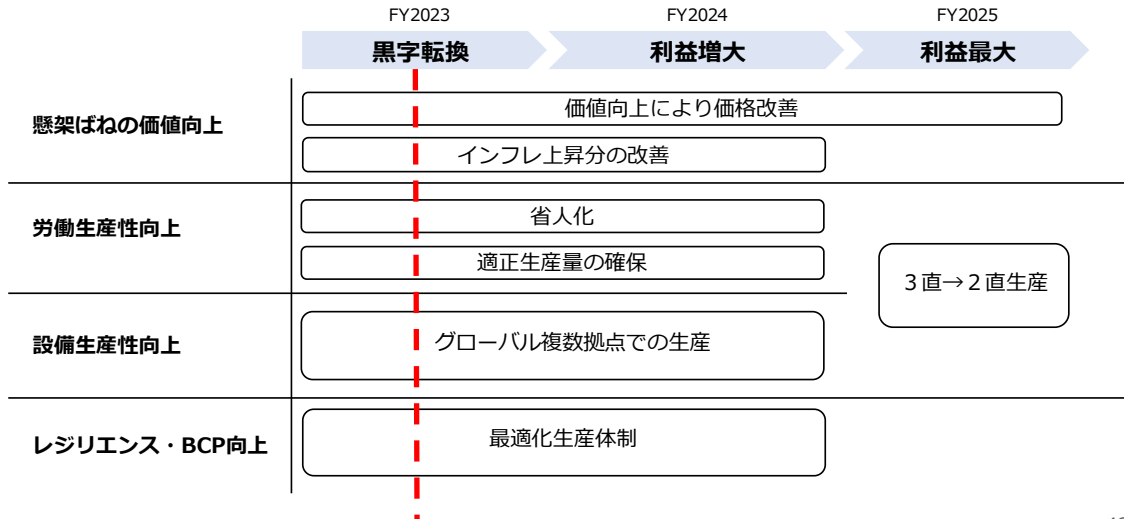
グローバル稼働率を基に
拠点間での最適生産を目指す

レジリエンス・BCPの強化

安定供給、生産のフレキシブル化を
目的としたグローバル供給体制の
見直し

プロジェクトの施策内容は大きく4つですが、こういう書き方をするとごく当たり前で、懸架ばねの価値向上、すなわち高く売ろう、あるいはインフレ分の価格転嫁をしっかりとやろう。それから設備生産性、労働生産性をともに向上しよう。それから今の状況下で非常に重要になってきますレジリエンス・BCPの強化、これは地政学的な問題とか政治的ないろいろなリスクとか、そういったものを考慮した上でフレキシブルに生産体制をとれるようにしていこうという方策です。

ロードマップ (2023年5月 決算発表時)



ロードマップです。2023年度は、とにかくにもばね事業の黒字転換をしたい。実際の施策は23年からやっていますが、やはり効果が大きく出てくるのは24年、25年となっています。それで今年度ですが、この中の労働生産性・設備生産性向上、特に米国でのこの2項目が、半年間ではまだ結果になかなか結びついておりません。現在価格改定及びインフレの上昇分の改善、これは営業部隊がかなりしっかりやっておって、現在のところ何とか23年には黒字にはなりそうです。大きな黒字まではいきませんが、何とか黒字に持っていけるところまで来ております。

懸架ばねの価値向上

材料費+補材経費

- ▶概ね回収も一部交渉中

労務費

- ▶交渉中

既存品

- ▶価値を認めてもらう活動強化

新規品

- ▶モデルチェンジの際に
適正価格で受注

労働生産性向上

労務費上昇を前提とした生産性向上
徹底した省人化

- ▶試作時間低減による労務費削減
歩留向上によるスクラップ低減
補材経費削減

47

懸架ばねの価値向上で、材料費と補材経費、これは概ね回収してきていますが、半年遅れ、1年遅れがまだ残っていて、ここの回収状況で23年度どのくらいプラスになるかが決まりそうなところではあります。基本的には今回回収できそうなところで、もう既にプラス側にはなっています。

次の労働生産性に関しては、米国が非常に苦しんでいます。やはり人手不足と急激な賃金上昇、ストライキがありましたように米国のビッグ3の大きな賃上げ、こういったことを受けて、かなりここは苦しんでいます。

設備生産性向上/レジリエンス・BCPの強化

- ・グローバル稼働率を基に
拠点間での最適生産を目指し
安定供給を行う

- ▶北米生産分の**15%**を
他国生産に切り替え



48

レジリエンス・BCPの強化という意味では、やはり拠点間のキャパをよく見ながら、稼働率をよく見ながらフレキシブルにつくれるようにというお客様、カーメーカーとの交渉を積極的に進めています。今年度は既に米国での生産分の約15%をタイ及び日本に切りかえること、それから次にメキシコで生産すること、こういった動きがとれるようになっております。この方向は、24年、25年とさらに大きくしていきます。

シートの取組 スバルプロジェクト

49

それではシートの取組み。特にスバルプロジェクトということでご説明させていただきます。

お客様からの評価を向上させ関係強化を図るために

Q:品質

開発・設計段階からの品質の作り込み

C:コスト

設計の手戻りをなくし、目標コストを達成させる

D:納期

Project Managerによる工程の明確化
進捗の推進

D:開発

シートの本質の追求
バーチャル開発

Project Management (PM) 体制構築

プロジェクト全体の進行を一元管理、お客様との窓口も一元化
専門部隊は各々の業務に注力し効率化を図る

お客様評価

QCDDを向上させ、迅速に対応することで、評価へと繋げ、更なる強固な関係構築を図る

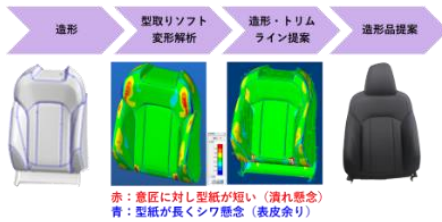
シートはお客様との関係性をよくして、いかに早く、いかに密着した状態でシートの開発を始めるかで、実はQCDDに大きく影響を受けます。しかもその開発が大体スタートから4年近くかかりますので、その間のプロジェクトマネジメントという、この体制をしっかりとっていく。その上でお客様の評価を上げていくことを、実は地道にやっておりました。これはかなり成果が出て、今年度の大きな収益向上の要因となっております。

新モデルへの対応結果

Q:品質

- ・開発・設計段階からの品質の作り込み

▶外観評点 **14%増** (前モデル比)



C:コスト

- ・設計の手戻りをなくし、目標コストを達成させる

▶設計変更数 **35%減** (前モデル比)

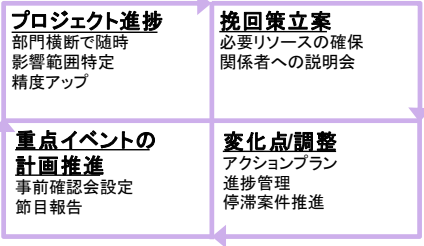


51

特にSUBARU様関連をまず強化しております。品質面で言うと、1年半ぐらい前のレヴォーグの立ち上げには本当に苦勞しました。直近のクロストレックという車種の立ち上げは非常にスムーズに、問題なく立ち上がっています。特にSUBARU様の品質要求の高い表面、しわがないとか、よれていないとかの外観品質に関しては1年半前のレヴォーグよりもさらに高い水準をクロストレックは要求されましたが、それでも今回外観評価点、これはいろいろなやり方があるんですけども、14%よくなったという状況で立ち上がり成功しています。コストも生産コストというより設計コスト、開発コストをかなり低減でき、工数で言うと35%低減させることができています。

D:納期

- ・ Project Managerによる工程の明確化
進捗の推進
- ▶ 下記サイクルを回すことで
スムーズな立上げに成功



D:開発

- ・ シートの本質の追求/バーチャル開発
 - ▶ フロントローディング※により設変減
試験数 **40%減** (前モデル比)
- ※ 品質に関わる重要工程を開発前半に織り込む



52

納期に関しても、実は納期どおりできているかというのをタイムリーに表現していくことが非常にお客さんとの関係で重要ですが、プロジェクトマネジャーを設定して、このあたりの関係をうまく立ち上げていっています。さらに開発もバーチャル開発、シミュレーションによる開発と、それからより前の段階で設計をしっかりとっていくことを含めて、非常にここもうまくいきました。こういったことを含めてシートの開発体制、特にSUBARU様とはうまくいきました。今後は他のOEM様に対しても同様に横展開を進めていきます。今後の、非常にいい前例になってきていると考えております。

モーターコアの進捗 モーターコアプロジェクト

53

次にモーターコアのプロジェクトです。

グローバル生産体制の構築

～受注増加への対応～

- ・ 新生産棟建設（厚木工場）
- ・ 土地取得（メキシコ）
- ・ 生産能力増強（中国）

金型製作能力の増強

- ・ 設計者の増員と育成
- ・ 加工設備増強
- ・ 設計製作拠点をタイに追加

新工法の開発

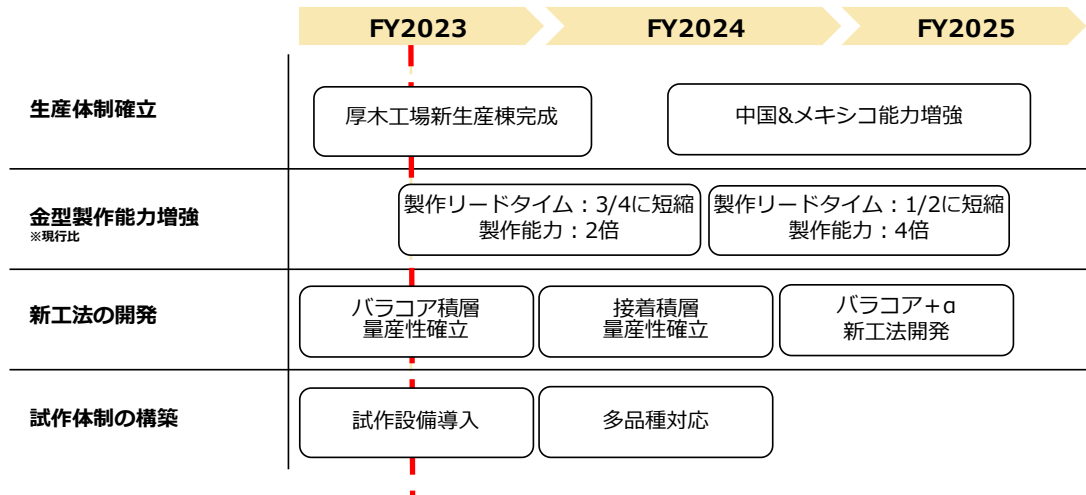
- ・ バラコア積層
- ・ 接着積層
- ・ バラコア+a新工法開発

試作品への積極的対応

- ・ 設計体制強化
- ・ 試作体制強化
- ・ 試作専用プレス導入

グローバル生産体制の構築、金型製作能力の増強、新工法の開発、試作品への積極的対応という、これが4つの柱で、前回もここは若干説明しました。

ロードマップ（2023年5月 決算発表時）



55

ほぼこの日程感、ロードマップに関しては予定どおり進んでいます。

グローバル生産体制の構築

～受注増加への対応～

- ・ 新生産棟建設（厚木工場）
▶ 竣工済（25年7月量産開始予定）
- ・ 土地取得（メキシコ）
▶ 新生産棟の建設予定
- ・ 生産能力増強（中国）
▶ 市場環境の変化により投資は見送り



金型製作能力の増強

- ・ 設計者の増員と育成
▶ 設計能力倍増(厚木+タイ)完了
- ・ 加工設備増強
▶ 23年下期より新規工作機械導入
- ・ 設計製作拠点をタイに追加
▶ タイにて金型設計実施中
部品加工も23年下期よりスタート



56

まず生産体制確立ということでは厚木工場の第6生産棟という、新しく日本国内での生産キャパを上げるための建物が11月初めに竣工しております。いつでも設備が導入できる段階になっており、次のステップに進めるようになっております。メキシコに関しては能力増強ということで新たな土地、38,000平方メートルほど購入して、そこに建てる建屋の設計を今進めております。残念ながら中国能力増強に関しては、日系OEMの中国であまりうまくいかない状況を踏まえ、現在のところ計画しておりません。

金型製作はこの事業の根幹になります。まず必要な設計者の増員というのは、厚木工場とタイ日発、タイでの設計陣の養成を含めて現在の計画、倍増に関しては完了しております。さらに下期より厚木工場6号棟、新規の建物の中に工作機械も導入していったって製作能力の増強を図っております。

新工法の開発

- ・バラコア積層
▶量産工法確立完了
- ・接着積層
▶量産機でトライ中
- ・バラコア+α新工法開発
▶軽量かつ高強度な
アモルファス材原理試作評価中

試作品への積極的対応

- ・設計体制強化
▶プロジェクトメンバーの専属化
- ・試作体制強化
▶24年1月自主試作トライ〜体制整備
- ・試作専用プレス導入
▶23年12月導入予定

57

新しい工法の開発ではいろいろな形があります。モーターコアの薄板一枚一枚を接着材でつける、かしめる、溶接とかいろんなタイプがあるんですが、新しい工法でより品質のいいもの、あるいは安くできるもの、こういった幾つかのつくり方を進めており、予定どおりの進捗で開発は進んでおります。

プロジェクトメンバーの専属化

原価企画・事業戦略

海外立上げ

設備

特許戦略

金型

技術・設計・評価

金型解析

品質

▶上記テーマごとにメンバーを専属し、24名で組織化

EV営業プロジェクトの新設

▶更なる拡販活動を展開するため、7名で組織化

58

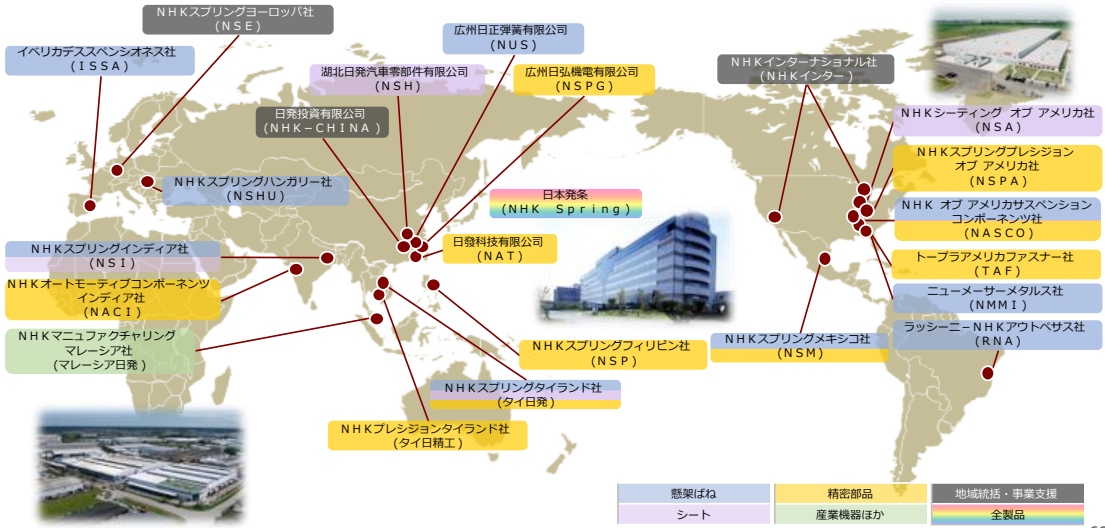
大きく半年前と変わった点は、体制をさらに一層強くしました。半年前はモーターコアプロジェクトと金型プロジェクトという名前になっておりましたが、これは全部集めてモーターコアプロジェクトという形にし、さらにメンバー24名全員専任にしました。兼務ではなくて、スピードを上げるということで専属化しております。さらにこのプロジェクト統括部長は厚木工場の前工場長が就任し、つくることも含めてプロジェクトで対応できる体制にしております。厚木工場は、別の工場長で運営する形になります。

もう一つ、お客様対応もEV営業プロジェクトという、これにはモーターコアと、もう一つ当社のEVの戦略の基本で、大きな柱である金属基板に関してもここで担当します。このEV営業プロジェクトというのを新たにつくって、ここも専任にしております。両方のテーマあるいは新しいEVプロジェクトのテーマを含めて、今後さらに増強していく予定にしております。

以上

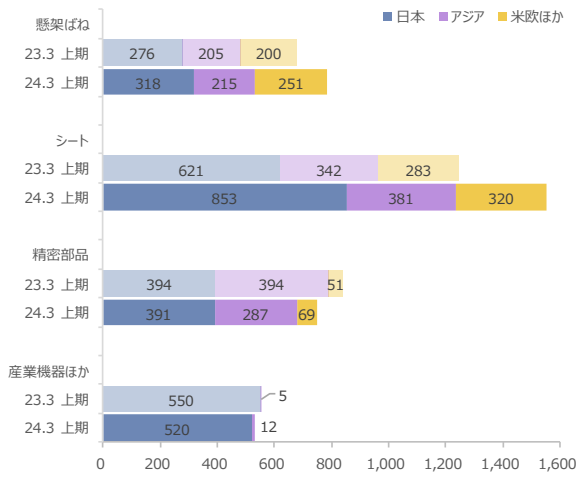
補足資料

補足資料
主要海外拠点



補足資料

売上高の分解情報（上期）

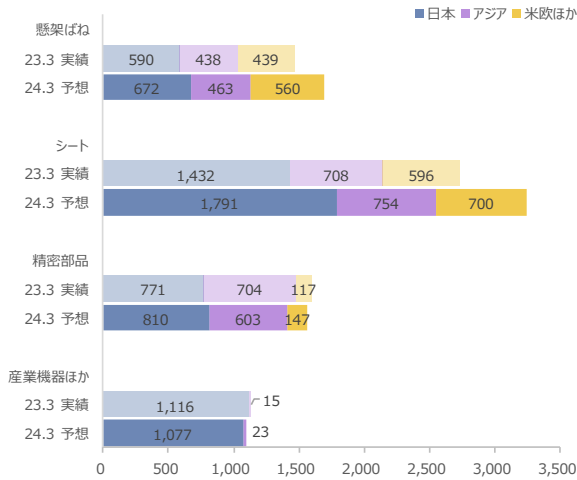


		(億円)			
		日本	アジア	米欧ほか	合計
懸架ばね	23.3 上期	276	205	200	681
	24.3 上期	318	215	251	786
シート	23.3 上期	621	342	283	1,247
	24.3 上期	853	381	320	1,555
精密部品	23.3 上期	394	394	51	840
	24.3 上期	391	287	69	747
産業機器ほか	23.3 上期	550	5	-	556
	24.3 上期	520	12	-	532
合計	23.3 上期	1,842	948	534	3,326
	24.3 上期	2,084	896	640	3,621

61

補足資料

売上高の分解情報（通期）



		(億円)			
		日本	アジア	米欧ほか	合計
懸架ばね	23.3 実績	590	438	439	1,467
	24.3 予想	672	463	560	1,695
シート	23.3 実績	1,432	708	596	2,736
	24.3 予想	1,791	754	700	3,245
精密部品	23.3 実績	771	704	117	1,592
	24.3 予想	810	603	147	1,560
産業機器ほか	23.3 実績	1,116	15	-	1,131
	24.3 予想	1,077	23	-	1,100
合計	23.3 実績	3,910	1,867	1,153	6,932
	24.3 予想	4,350	1,843	1,407	7,600

62

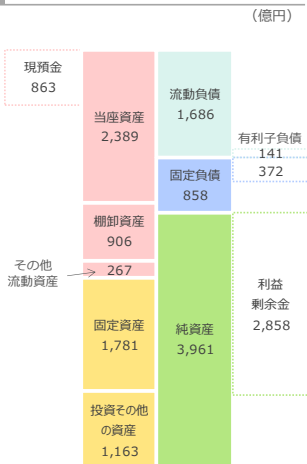
補足資料
資産の状況

	20.3期 実績	21.3期 実績	22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期 上期実績	増減額
総資産	5,326	5,607	5,880	6,060	6,507	447
自己資本	2,709	2,839	3,226	3,492	3,800	308
自己資本比率	50.9%	50.6%	54.9%	57.6%	58.4%	0.8%
現預金	745	793	921	729	863	134
有利子負債	581	697	505	500	513	13
ネットキャッシュ	164	95	416	229	350	121

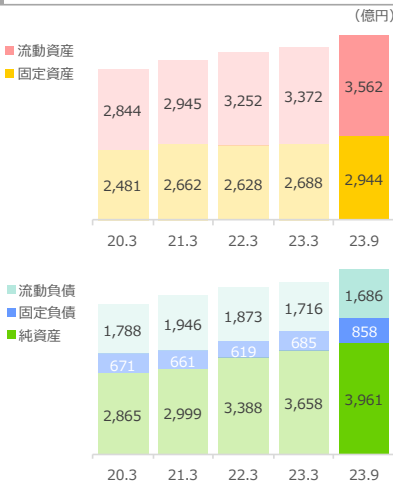
63

補足資料
バランス・シートの状況

24.3期上期実績



バランス・シート推移



▼資産

為替が円安に推移した影響により現金及び預金等が増加したほか、保有上場株式の時価の上昇により投資有価証券が増加。

▼負債

投資有価証券の時価の上昇に伴い繰延税金負債が増加。

▼純資産

その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定が増加。また、親会社株主に帰属する四半期純利益により利益剰余金が増加。

64

補足資料

設備投資・減価償却費（事業別）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

		(億円)				
		22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期		5月予想差
				5月時点予想	今回予想	
設備投資	懸架ばね	30	45	78	73	△5
	シート	50	46	59	58	△1
	精密部品	113	121	196	145	△51
	産業機器ほか	30	58	63	66	3
	全社共有	7	9	40	39	△1
	合計	232	280	436	381	△55
	前期比	△6.9%	20.7%	55.3%	35.7%	
減価償却費	懸架ばね	66	66	62	66	4
	シート	48	55	48	54	6
	精密部品	114	113	122	112	△10
	産業機器ほか	36	35	39	38	△1
	全社共有	17	17	25	20	△5
	合計	283	288	296	290	△6
	前期比	2.9%	2.0%	2.5%	0.4%	

65

補足資料

設備投資・減価償却費（地域別）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

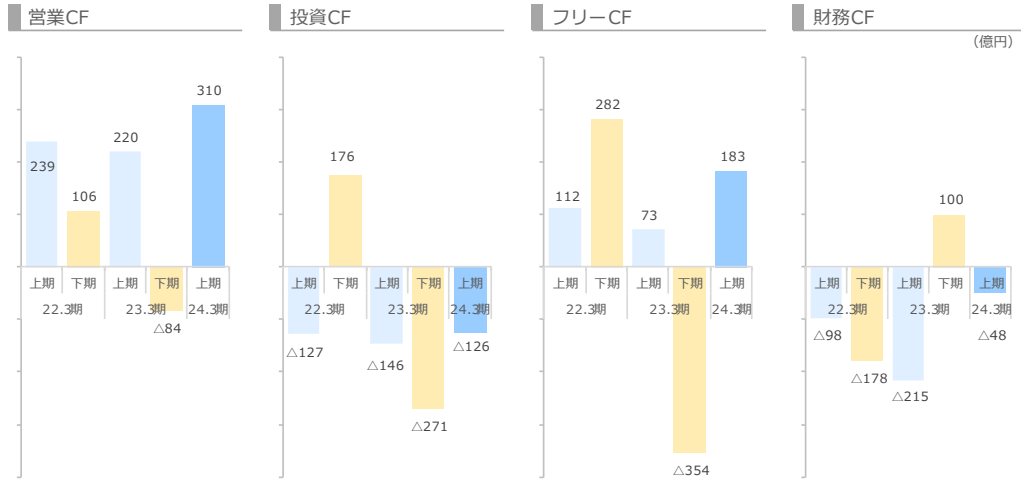
		(億円)				
		22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期		5月予想差
				5月時点予想	今回予想	
設備投資	日本	130	178	252	242	△10
	アジア	73	61	126	89	△37
	米欧ほか	28	40	58	50	△8
	海外計	102	102	184	139	△45
	合計	232	280	436	381	△55
減価償却費	日本	165	149	162	152	△10
	アジア	73	86	91	89	△2
	米欧ほか	44	52	43	49	6
	海外計	117	139	134	138	4
	合計	283	288	296	290	△6

66

補足資料

キャッシュ・フローの状況（半期ベース）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.



67

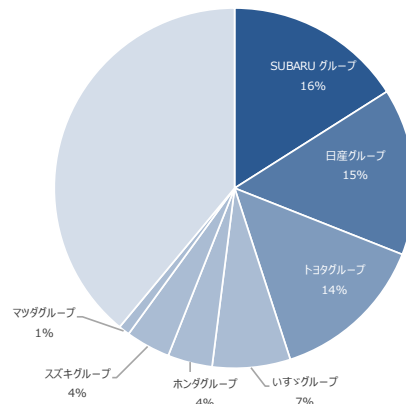
補足資料

総売上高に占める主要カーメーカーへの売上比率は？

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

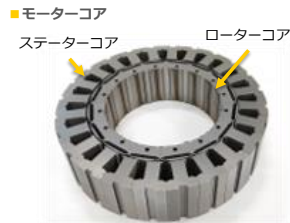
主要カーメーカー	22.3期 実績	23.3期 実績
SUBARUグループ	15%	16%
日産グループ	14%	15%
トヨタグループ	13%	14%
いすゞグループ	6%	7%
ホンダグループ	4%	4%
スズキグループ	4%	4%
マツダグループ	1%	1%
上位3社	42%	45%

(注) 比率は総売上高に対する割合



68

製品紹介：モーターコア



当社で手がけるモーターコアは、EV、HV自動車の駆動用、または発電用モーターに使用される積層鉄心です。

0.25～0.35mmの電磁鋼板をプレスで打ち抜いて数百枚積層したもので、カシメや溶接により締結されております。

モーターコアは磁石が挿入されてモーターの回転部となるローターコアと、固定となる巻き線部のステーターコアから構成されます。

バッテリーからの電力がインバーターを介してモーターに供給され、コイルを巻き付けたステーターコアに発生する回転磁界の作用によりマグネットが組み込まれたローターコアが吸引・反発することでローターコアが高速回転します。

薄板の積層鉄心であるモーターコアは磁力線が通りやすく、より強い磁力を発生させる機能を持ちます。

モーターコアは直径200mm前後、高さ150mm前後で、当社で手がける精密プレス加工品としては比較的大きいサイズとなりますが、必要とされる製品寸法精度がミクロンレベルであり、当社で長年かけて築き上げてきた自動車用部品の精密プレス加工技術やHDD（ハードディスクドライブ）用部品の精密プレス加工技術を駆使した、大型の超高精度プレス加工品であります。

モーターコアの生産において肝となるプレス金型は、設計～製作～メンテナンスまで一貫して自社で行っており、国内だけでなく、グローバル展開しておりますメキシコ、中国の工場でも同じ品質のモーターコアの生産が可能です。

69

製品紹介：HDD（ハードディスクドライブ）用サスペンション



HDD用サスペンションは、HDDの中で、ディスク上のデータを読み書きする微小部品を支える特殊ばね製品です。

現在、HDDは個々のパソコンの中に入っている数よりも、SNSや動画共有サイトなどのサービスを運営する会社のデータセンターにある数の方が多く、そこでは超大容量HDDが数十万個単位で並んでいます。

CL Aタイプ（以下CL A）のHDD用サスペンションが数多く使われており、写真の例では、HDD1台に対しCL Aが8個搭載されています。CL Aは、製品先端部に組み込んだ超小型アクチュエータで、データを読み書きする微小部品を動かします。中央部に小型アクチュエータを組み込んだ従来製品のD S A（以下D S A）に比べ、より高速に微細な動きができます。

人に例えるなら、D S Aは手首まで、CL Aは指先まで使う感じで、素早く細かな動きができるようになったことから、位置決め精度や速度が向上し、超大容量HDDには欠かせない製品になりました。

当社ではCL Aを2016年1月から世界に先駆け量産化し、世界トップシェアを誇っています。

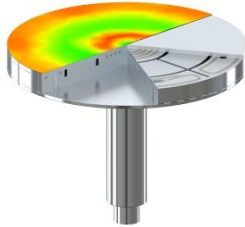
*CL A = Co-Located Actuator の略

*D S A = Dual Stage Actuator の略

70

製品紹介：半導体プロセス部品

■成膜装置用マルチゾーン制御ステージヒータ



半導体はシリコンの基板の上に導線および絶縁物が微細かつ複雑なパターンで描かれ、回路が形成されています。ニッパツの半導体プロセス部品は半導体製造の主要工程である“成膜”および“エッチング”の工程で用いられています。

ニッパツのステージヒータはCVD、ALD*などの成膜工程で広く採用されています。主にアルミ合金、ステンレスなどの金属製で、長年培ってきた高度な接合技術により、複雑な内部構造の実現が可能です。

*CVD ; Chemical Vapor Deposition (化学気相成長) の略

*ALD ; Atomic Layer Deposition (原子層堆積) の略

ヒータエレメントの設計技術、シミュレーションのための解析技術を駆使し、複数のヒータエレメントや冷媒用チャンネル、断熱空間を配置し、均一な温度分布のみならず、部分的に数十度の範囲で差を生み出す、積極的な温度分布制御を可能にしています。

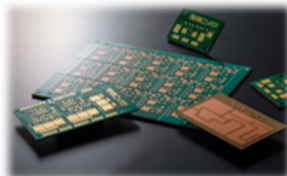
■エッチング装置用溶射付冷却板



一方エッチング装置向けにおいては、冷却板と呼ばれる、プロセス中のシリコンウエハが載荷される、重要なステージ部品を製造しています。多くはアルミ合金で造られており、ヒータ同様高度接合技術を核に、材料調達から精密加工、セラミクス溶射施工までの一貫生産を強みとしています。

近年では、チャンバ下部でウエハを支持するヒータ、冷却板に加え、チャンバ上部に設置され、プロセスに必要なガスを供給するための部品であるシャワーヘッドの開発にも注力しており、売上を伸ばしております。

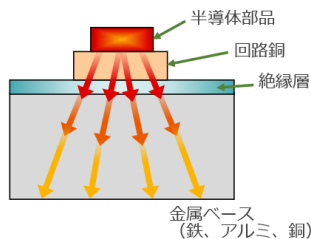
製品紹介：金属基板 ~Integrated Metal Substrate~



金属基板（以下IMS）は、ベースにアルミや銅などの金属板の上に絶縁層を介して回路を形成したもので、放熱性が優れているという特徴があります。その放熱性を活かして、車載用、産業用、民生用の分野で、IMS上に実装される半導体部品などが発生させる熱を効率よく逃がすという働きで使われております。

自動車分野では、電気自動車やハイブリッド車に搭載されるDC-DCコンバータや充電器モジュールなどへの採用が増えており、将来的には駆動用のインバータ回路への採用も目指しております。産業用途では、汎用インバータやエアコンのインバータ回路の他にも、再生可能エネルギーのパワーコンディショナー内部のパワーモジュールとして当IMSが多く使用されております。

■IMSの断面構造図



当社のIMSの特徴は、高放熱・高信頼な絶縁層の開発から製造、そしてIMSに仕立てるまでの一貫生産を行うことを強みとしております。

当社では、1980年代よりIMS開発を開始し、現在に至るまで次々と高放熱絶縁材を市場に送り出し業界をリードしております。

NHKニッパツ

●本資料に記載している日本発条線の予想、計画は、将来の実績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、経済情勢、市場動向、為替の動向等、重要な要素の変動により、見通しとは異なる結果となり得ることもご承知下さい。

●本資料に掲載されている事項は情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。

●この資料の著作権は日本発条線に帰属しております。
●無断転載・複製することを禁じます。